



「生きていますすごいんだ!!」 ～「こどもが生きる力」を守る～



なんでやねんすごろく

講座5では認定NPO法人・地域包摂こども支援センター「こどもの里」理事長の^{しょうほどもこ}荘保共子さんに「生きていますすごいんだ!!」～「こどもが生きる力」を守る～と題してご講演をいただきました。荘保さんは大阪市西成区釜ヶ崎地区で、地域のこどもたちのために「こどもの里」を運営されています。荘保さんが40年にわたって関わってきた釜ヶ崎で生きるこどもたちについてお話いただくと共に、こどもの権利を保障するためにこういった取組が必要なのか具体的な事例を基にお話いただきました。

○こどもが持っている力

荘保さんが活動する釜ヶ崎では路上生活者が多く暮らしています。路上で寝ている人を見つけた小学3年生のAさんは近くにいた警察官に「何とかしてあげて」と頼んだそうです。その時警察官は何もしようとしなかったそうですが、その警察官に対してAさんは「このおばちゃん死んだらあんたらのせいや」と強い口調で声をあげたそうです。Aさんの父親はアルコール依存症だったこともあり、父親の姿から放っておけないと感じたそうです。Aさんのような親を慕う力はすべてのこどもが持っている力だとお話いただきました。

○「問題児」ではなく、「問題を抱えているこども」

講演の中で家出をする子、暴力的な子、万引きをする子、リストカットする子などいわゆる「問題児」とされるこどもたちのお話がありました。しかしながら、そういったこどもをおとなが「診断するのではなく、ストーリーを知る」ことで「問題児」ではなく、「問題を抱えていたこども」であると捉え直しができることとお話いただきました。様々な「問題行動」は「異常な状況での正常な反応」であり、こどもたちが「それでも私は生きていきたい」という生きる力であり、「このままでは生きていけない」というSOSであるとおとなが捉えることが大切だと学ぶことができました。

○なんでやねんすごろく

こどもたちとこどもの権利について学ぶために作られた「なんでやねんすごろく」を紹介いただきました。こどもたちの意見から作られた「なんでやねんカード」には「先生に相談したいことがあるけど、いつも忙しそうで、先生を困らせるかな、と思って話ができない」や「他の子はあんなことできるのに、と比べられる」など、こどもの人権を守ることは当たり前のこと、難しいことではないことに気がつくことができます。また、こどもだけでなく、おとながこどもの声からこどもの人権を侵害していることに気がつくことができるすごろくです。(詳細 <https://kodomonokenrikansai.wixsite.com/network>)

〈参加者の声から〉

- 「こどもたちが安心できる居場所を作っていくことが、命を繋いでいく現場となっていく。生きていますすごい。生まれてきてよかったと目の前にいるこどもが1人残さず思えるように」という言葉がとても印象に残りました。
- 話を聞いていて何度も涙を堪える場面がありました。こどもの里のような場所が今の日本には本当に必要だと感じます。孤独になるのが虐待を助長させる。親を一人にしない。「助けて」を簡単に言える環境作りが大切だと感じました。